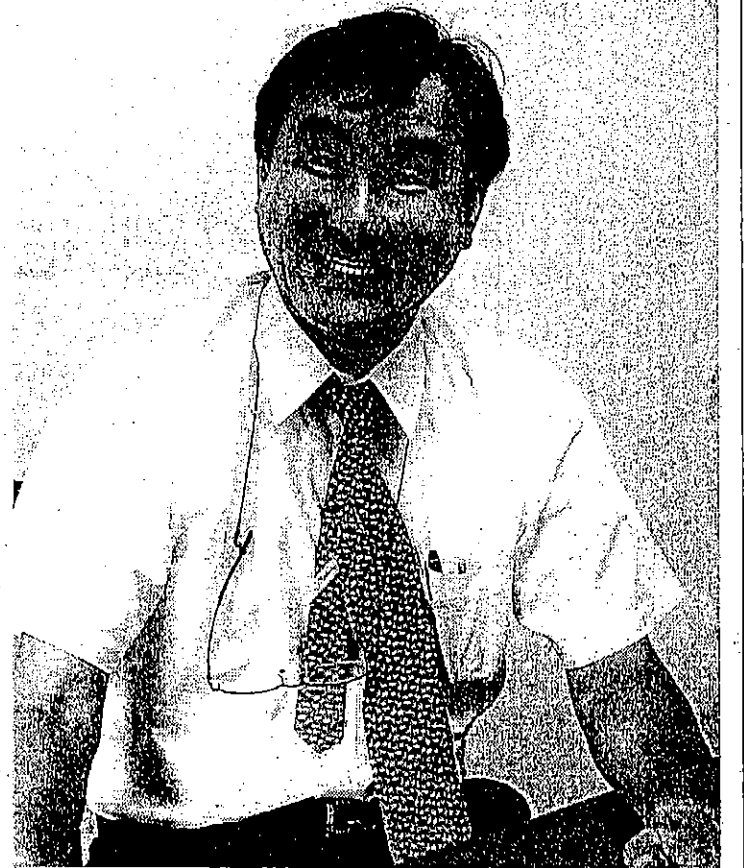


経済活性化 貢献は



うつのみや ひでと 宇都宮 英遠 中央タクシー社長

47年、長野市生まれ。日大工学部中退。75年に同社創業。成田など空港への乗り合いタクシー運行が好評。

行政が、既得権益にメスを入れ、戦っていること、あらゆる業界で談合体質を壊す方向に働いた。それは活性化に貢献していると思う。

——具体的に
タクシー業界も、かつては業界益を中心に回っていた。例えば、私の会社が女性客の利便を図ろうとストッキングを原価で販売しようとしたら、ストッキングをかけた。何もしない方が業界として楽だったからだろう。

不満だったが、組合を抜けること共通タクシーケツ

行政が、既得権益にメスを入れ、戦っていること、あらゆる業界で談合体質を壊す方向に働いた。それは活性化に貢献していると思う。

——具体的に
タクシー業界も、かつては業界益を中心に回っていた。例えば、私の会社が女性客の利便を図ろうとストッキングを原価で販売しようとしたら、ストッキングをかけた。何もしない方が業界として楽だったからだろう。

不満だったが、組合を抜けること共通タクシーケツ

動脈硬化の県庁が一変 新規参入含め機会均等

戦後、長野県の民選知事は田中氏を除き3人しかいない(注1)。しかも、副知事出身の知事2人がそれぞれ20年ずつ務め、00年の選挙でまた副知事が立候補した。一本の人脈で県政が牛耳られ、私物化されてきた。「いい加減にしてくれ」という感じだった。

県庁は動脈硬化を起していた。職員は高圧的で傲岸不遜。それが田中知事になって、雰囲気が変わってきた。庶民感覚で言えます。

行政が、既得権益にメスを入れ、戦っていること、あらゆる業界で談合体質を壊す方向に働いた。それは活性化に貢献していると思う。

——具体的に
タクシー業界も、かつては業界益を中心に回っていた。例えば、私の会社が女性客の利便を図ろうとストッキングを原価で販売しようとしたら、ストッキングをかけた。何もしない方が業界として楽だったからだろう。

不満だったが、組合を抜けること共通タクシーケツ

対論 田中県政とは

田中知事の県政を経営者の視点で見ると、どんな評価が出てくるのでしょうか。業界の談合体質を壊したことが経済の活性化に貢献したとみる長野タクシ―業界の黒崎 中央タクシ―社長の宇都宮英遠さん。長野県に本社を置く世界企業、セイコーエプソンのトップ経験者で、自ら策定にかかわった県の産業戦略は空洞化したと断言する安川英昭さん。2人に聞きました。

3 経営者の見方

◆この企画は随時掲載します。

——なぜ、県政への評価が低いのですか
知事は「コモンズ、コンシェルジュ、ルネッサンス、パートナーシップ」などの横文字を使って「改革のイメージ」を演出し、残念ながら成功もしている。しかし、本当の意味で改革はできていない。財政改革でも、総務省の研究会が出た資料を見ると、負債は

減っているが、同じくらい積立金も減っている。費目が変わっただけで不透明だ(注5)。
前知事から引き継いだ負債

組織の活性化のためにも、人事異動は必要では度過ぎれば何もできなくなる。1年に何回も職場が変わった人もいると聞くが、それでは職員がやる気を失い、きちんとした仕事や組織運営はできない。エプソンの場合、異動のサイクルは3～5年。最低でも

産官学の連携に冷や水 頻繁な人事で熱気消失

私が座長を務めた県の「信州ものづくり産業戦略会議」では、最終まで「地域企業との産官学連携による研究開発を積極的に推進」する旨を盛り込んだ。ところが産官学連携の要である県テクノ財団への職員派遣と人件費補助をやめてしまった(注7)。企業の参加意識に水をかけた。さらに、頻繁に人事異動があつて、会議に参加した商工関係の県職員はほとんど入れ替わってしまった。戦略を議論した時の熱気は失われた。完全に空洞化したと言っています。

2年は同じ仕事をしないと成果は出せない。県の窓口も頻繁に変わるため、産業界とのやりとりも紋切り型になっている。県への進出を検討する企業にとっても、相談する相手として頼りなく感じていると聞く。

企業経営では、ある事業を存続させるかを判断する際、「この期間内に、この目標を達成する」という目標を与え、それができなければ撤退というプロセスを踏む。そうすれば、社員も納得する。



やすかわ ひでまさ 安川 英昭 県経営者協会会長

31年、北海道・小樽市出身。東大工学部卒。セイコーエプソン社長、会長を歴任し、取締役相談役。

最初、知事選で、副知事だった池田典隆氏が当選した方が県民のためによかった(注8)。

——最近の選挙で、副知事だった池田典隆氏が当選した方が県民のためによかった(注8)。

2氏が取り上げた6年間の話題



(注1) 林虎雄氏＝写真左＝(任期1947年～59年)は日本社会党県組織の書記長、衆院議員を経て初の民選知事に。西沢権一郎氏＝同中＝(同59年～80年)は林県政の副知事。6選目でも83万票を集めた。吉村午良氏＝同右＝(同80年～00年)は、西沢県政の副知事後援会も

大半を継承。
(注2) 道路や河川整備などに使う公共事業費と県単独事業費の合計額は、00年度の2396億円から06年度は867億円に減った。

(注3) 指名競争入札にかわり、一定の能力など条件が合えば誰でも入札に参加できる受注希望型競争入札の導入で、予定価格に対する落札価格の割合(落札率)は、建設工事で01年度の97%から05年度は81%まで下がった。

(注4) 県世論調査協会によると田

中知事への支持率は、再選直後の02年9月で84.7%あ



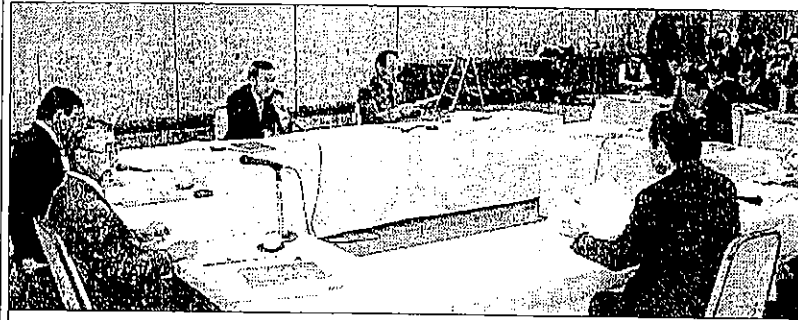
県庁前に設けられた禁煙タクシー乗り場の看板

ったが、今年4月で43%になっている。

(注5) 竹中総務相主催の「地方分権21世紀ビジョン懇談会」で、猪瀬直樹委員が「長野県の借金残高は5年間(00年度～04年度)で約500億円減少したが、積立金もほぼ同額を取り崩している」と指摘。実数は借金605億円の減に対し、積立金541億円の減。

(注6) 県税収入は、00年度の2560億円から04年度は2065億円に減少。06年度2140億円の見込み。

(注7) 04年、県は外郭団体見直しの一環として、同財団への県職員の派遣(03年度12



県内企業の経営者らが参加して01年11月に初会合を開いた「信州ものづくり産業戦略会議」。02年末に最終まとめを出した＝長野市内のホテルで

人)と人件費補助を06年度末に廃止することを決定。

(注8) 90年～99年の有効求人倍率の平均値は全国0.83倍に対して長野県は1.49倍。00年

～05年は全国0.69倍に対して長野は0.88倍。最新の数値(06年4月)では全国が1.04倍に対し長野県は1.17倍となっている。

体験・意見・提案お寄せください

県の課題や政策、知事選などをテーマにした対論を随時掲載します。あなたの体験や意見、感想をお寄せください。また、読みたいテーマや、聞いてみたい論者の提案も募集します(連絡先を明記)。

<電子メール>
chijisen-nagano@asahi.com
<ファクス>
026・223・7331
<郵便>
〒380-0921
長野市栗田989-1
長野朝日放送5階
朝日新聞長野総局